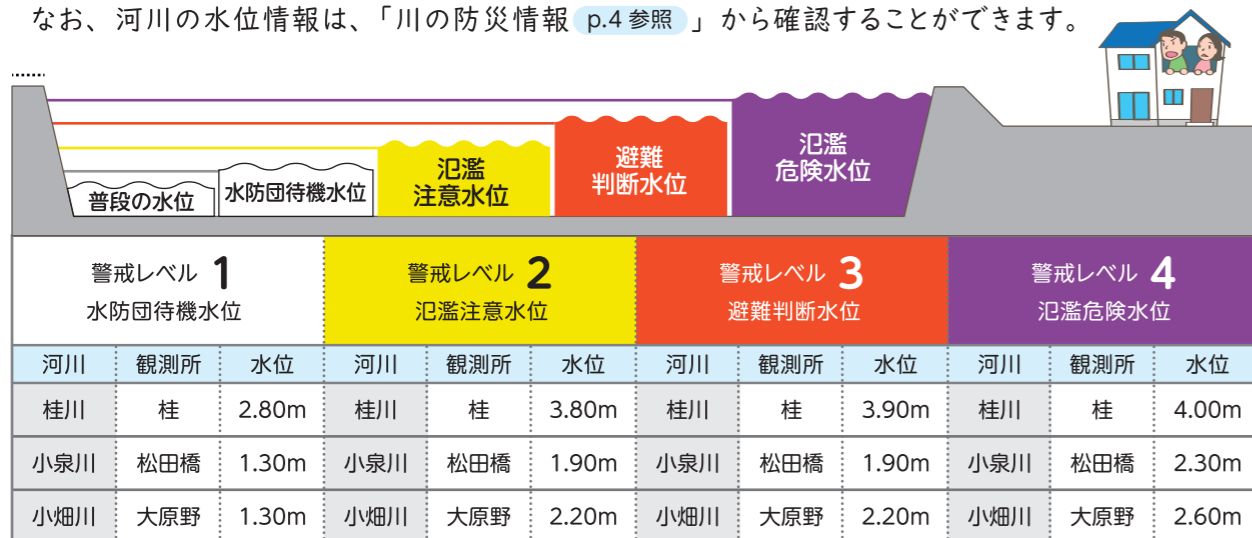


河川水位情報

川の水位が上昇し、洪水のおそれがあるとき、国土交通省・京都府から河川の水位情報が各自治体に通知されます。大山崎町は、各河川の水位が基準を超え、なお水位が上昇すると判断した場合に避難情報を発令します。

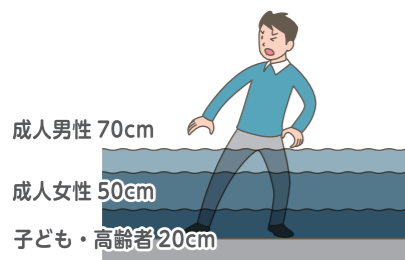
なお、河川の水位情報は、「川の防災情報 p.4参照」から確認することができます。



早めの避難行動を

浸水が始まると、水深が浅くても移動することが困難になります。気象情報や河川の水位情報をもとに、身の危険を感じたら直ちに避難しましょう。車での移動は故障や渋滞に巻き込まれるおそれがあるため、できるだけ徒歩での移動を心がけましょう。

歩行が困難になる浸水の深さ



ドアが開かなくなる浸水の深さ



車が止まってしまう浸水の深さ



車種によってはタイヤの半分くらいでエンジンが止まることもあります。

避難のポイント



長靴は水が入って歩きにくく危険です。運動靴を履き、動きやすい格好で避難するようにしましょう。



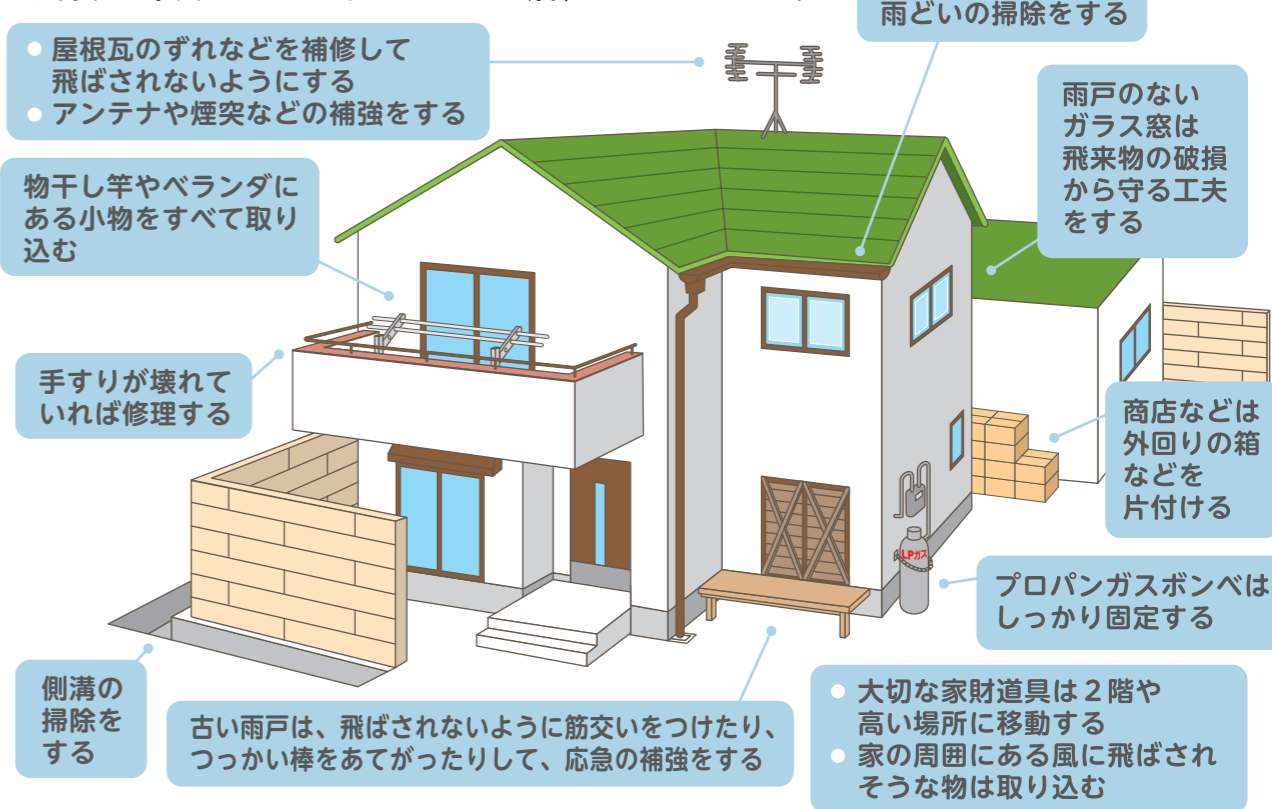
冠水時は足もとが見えないことが多いので、よく通っている道でも道路の真ん中を慎重に歩くようにしましょう。



鉄道下などの路面が低くなっているところ（アンダーパス）は水がたまりやすいので、大雨のときは入らないようにしましょう。

日ごろからの水害対策

個人の生命や財産を守るためには、皆さん一人ひとりだけでなく、家族が協力して災害に備えておく必要があります。地震や水害などに備えて、ご自宅やその周囲について、水害に対する安全性を点検しておきましょう。特に、側溝や雨水ますは詰まってしまうと道路冠水や住宅浸水の原因となるため、日ごろから清掃を心がけましょう。



大雨が降ったときの浸水対策

家庭にあるものを利用し、玄関などの出入り口や床下への浸水を防ぎましょう。

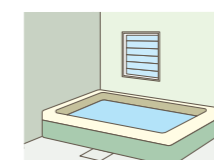
ゴミ袋による簡易水のう

ゴミ袋を二重にし半分程度水を入れて、ダンボール箱に入れ連結します。



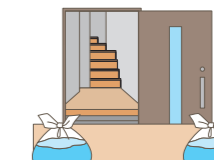
風呂の貯水

下水の逆流防止、生活用水としての利用などの利点があります。



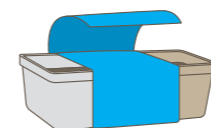
止水板

出入り口は長めの板などを使用し、浸水を防ぎます。



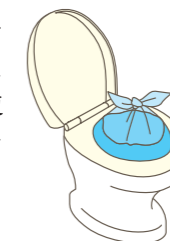
プランターとレジャーシート

土を入れたプランターを、レジャーシートで巻き込み使用します。



トイレや洗濯機などの排水溝

水を入れたビニール袋をおいておくと排水溝から逆流してくる泥水を防げます。



ポリタンクとレジャーシート

ポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み連結します。

